

自 己 評 価 表

愛媛県立北条高等学校
学校番号 (19)

教育方針	多様性を尊重し、総合学科の強みを最大限に生かした教育活動の中で、未来を創る人材を育成する。	重点目標	○校訓「自律 創造 敬愛」に根差した生徒の育成 ○フットワーク・チームワーク・ネットワークの充実・強化
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	教科指導の充実	授業公開週間や研究授業等を利用し、年2回以上相互授業参観を行い、指導方法の改善と授業力向上を図る。また、学校訪問研修、教育センター研修に積極的に参加し、専門性の向上に努める。 A:4回以上 B:3回 C:2回 D:1回 E:0回	A	今年度は11月に学校訪問研修があり、教科や年次のホームルームの研究授業を全教員が、他校の先生にみてもらふ機会や、相互授業参観日を設けることにより、各人の授業力向上の機会を提供できた。また、ICT活用授業改善推進事業や学校訪問での公開授業参観をはじめとした校外研修の活用にも努めた。	校内研究授業や相互授業参観週間では、個々の研鑽の機会となるよう積極的な参観を呼び掛ける。今後もICT機器を効果的に活用した授業について継続研究するとともに、授業の定着を図る。
		生徒による授業評価を年2回、保護者による授業評価を年1回実施し、「分かる授業」を目指した改善策を講じる。	A	7月と12月の年2回授業評価を実施し、生徒による評価の反省点・問題点を踏まえた上で、生徒の実態に合わせた「分かる授業」のための適切な工夫がなされた。	総合学科の特長を生かし、ICT機器を活用した授業を通して生徒の意欲・関心・学力を高める授業を実践する。アンケート結果を教科や課で共有し、組織的・系統的な指導につなげる。
	家庭学習の充実	1日3時間以上の家庭学習時間を確保させ、家庭学習の習慣化と質の向上を図る。 A:3時間以上 B:2時間59分～2時間 C:1時間59分～1時間 D:59分～30分 E:29分以下	A	第1回家庭学習時間調査では平均3時間2分、第2回では平均3時間23分であった。どちらも3時間という目標を達成することができた。	家庭学習時間を増加させるとともに、生徒が自分自身の進路を真剣に考えた学習スタイルを確立し、主体的に学習に取り組むことができるように支援する。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	校訓を念頭に自分と学校に「自信と誇り」を持てるように基本的な生活習慣の徹底を図る。行事等の機会を捉え、身だしなみの徹底を図る。	B	遅刻や指導をされるのが重なる生徒が見られた。指導に対しては素直に従うことができるが、自主的な行動に結びつかない生徒がいる。	規範意識を高めるために「是は是、非は非」という観点に崩さないように指導していきたい。
		問題行動未然防止	指導方針の明確化を図り、教員間の意識の統一を踏まえて、情報を共有して問題行動の未然防止とともに組織としての対応を心掛ける。 生徒理解のため年間6回以上の個人面談を行う。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	A	保護者の価値観や親子関係の多様化に苦慮したが、教職員間で連携を取りながら、指導方針の明確化を図ることができた。
進路指導	進学指導の充実	1次からの生徒への進路研究の意識付けを行うとともに、組織的な面接・小論文指導を充実させ、総合型選抜・学校推薦型選抜等における志望校合格率100%を目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:59%以下	A	日頃から生徒と積極的にコミュニケーションを図りながらよりよい信頼関係を築くことができた。面接指導週間等を通して担任と副担任が協力して年間6回以上個人面談を行うことができた。	日頃から生徒と積極的にコミュニケーションを図り、進路面、生活面においてより協力的な体制を図り、情報を共有するよう工夫する。
		就職指導の充実	進路ガイダンス、進路実現講座、面接指導、就職セミナーなどを効果的に運動させることで、学校紹介による就職内定率100%を目指す。さらに、就業後のミスマッチを防ぐために、生徒と担任、就職担当職員との相談を充実させる。 A:100% B:99～90% C:89～80% D:79～70% E:69%以下	A	3年次の進学希望者への面接・小論文指導に関しては、9月初旬の進路実現講座など、組織的に行った。その結果、総合型選抜・学校推薦型選抜において、のべ70人の内66人が合格した。合格率は94.3%であった。
人権教育	人権意識の高揚	いじめの未然防止のために、状況把握や情報共有がスムーズにできる工夫と協力体制づくりを継続する。人権意識向上のための様々な啓発活動を実施し、生徒が心の成長を感じられるよう工夫する。	B	3年次の就職希望者への指導に関しては、2年次後半から指導してきたことが実り、希望者全員が内定を決めた。また就業後のミスマッチを防ぐために希望者には職場訪問も行った。	進路ガイダンス、面接指導、就職セミナー、就職模試、支援員との相談などを運動させることで、確実に就職内定率100%を達成させる。ミスマッチを防ぐために、担任及び就職課員との面談、企業研究や応募前職場見学を確実に実施する。
		人権・同和教育の学びによって、生徒自身がしっかりした考えを持てるよう努める。学期に一度実施している人権・同和教育ホームルーム活動の内容を充実させ、主体的な学びにつなげる。	A	いじめの未然防止のために、アンケート結果の確認を行い、情報交換を密にして対応することができた。人権委員会を中心に人権意識向上につながるさまざまな啓発活動を充実させることができた。	人権・同和教育ホームルーム活動の学びでは、各クラスで真剣な取り組みが継続できており、学びを通して人権意識の高揚がみられた。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
自己実現の支援	進路意識の醸成	「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」「進路実現講座」を中心としたキャリア教育における学習活動を効果的・効率的に推進することで生徒の進路意識の醸成を図り、キャリア教育満足度100%を目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:59%以下	A	「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」「進路実現講座」をほぼ予定通り行うことができた。3年次生の進路実現に向けての取組の自己評価において、「大変良かった」「良かった」の合計は96%であり、5年連続で90%以上を越えていた。	来年度の「産業社会と人間」「総合学習」「総合研究」について生徒の実態に合った内容に改訂できるように教科や年次、キャリア教育推進会議等での意見を元に計画を立て、調整を行っている。
	図書館教育	「朝の読書」、「総合研究」をはじめとした授業における調べ学習、図書委員会の活発な活動を通して読書習慣の定着を図り、年間貸出冊数700冊以上を目指す。 A:700冊以上 B:699～600冊 C:599～500冊 D:499～400冊 E:399冊以下	B	図書室の利用が少なく、貸出冊数が伸びていない現状がある。リクエストボックスの設置、読書アンケートの実施、図書室便りを随時発行するなど意識を高める働きかけをしたが、Aには及ばなかった。しかし、3学期に入って1、2年次の貸し出しが増加傾向にある。	利用時間がほぼ昼休みに限られていることから、総合的な学習の時間、ホームルーム活動や授業で積極的に活用し、新たな本との出会いの素晴らしさが実感できるように支援するために、さらなる図書室の環境整備に努めたい。
	部活動の活性化	部活動加入率85%以上で活気ある部活動を実践する。 A:85%以上 B:84～80% C:79～75% D:74～70% E:69%以下 県大会、四国大会、全国大会の出場10部以上を目指す。 A:10部以上 B:9～7部 C:6～5部 D:4～3部 E:2部以下	A	部活動加入率は96%で目標を達成することができた。しかし、団体競技で年間を通して単独でチームを組めない運動部が多くなっている。	生徒数の減少で各部とも部員の確保が難しくなってきたので部の統廃合をさらに進めなければならない。
	資格取得の推進	進路実現につながる資格取得へ積極的に挑戦する意欲を持たせるとともに、全体での合格率上昇を目指す。また、上級資格への挑戦意欲を高め、1級の資格取得を目指す指導を行う。	A	8つの部活動が県大会以上に進むことができた。全国大会へも4つの部活動が出場することができた。	保護者や地域に活動が伝わるよう魅力の発信に学校全体で取り組みたい。
	教育支援の充実	アンケート結果や教育相談、スクールライフアドバイザーとの面談を通じて、生徒が抱えている問題や悩みの早期発見や、生徒一人一人の気持ちの変化を見逃さないように努める。個々の悩み解決のために生徒の心に寄り添える取組を、継続して実施する。	B	アンケート結果や気になる生徒との面談についての情報共有を図った。スクールライフアドバイザーの所には、自分の思いを聞いてもらうために定期的に来る生徒、子供との関わり等を相談するために来校する保護者がいて、それぞれが解決の糸口を探すためのサポートができた。	学校生活が楽しくなるための、継続した支援を続けなければならない。そのためには、いろいろな場面で対話やコミュニケーションを大切にし、個々の生徒それぞれに向き合い、その思いを受け止め共有できる環境づくりを行う必要がある。
開かれた学校づくり	保護者との連携強化	会員相互の親睦や信頼関係作りのために、校内や校外の関係行事への参加を呼び掛け、PTA活動の活性化に努める。さらに、学校ホームページやインターネットの機能を活用し、今日的PTA活動のあり方について研究し、企画・運営する。	A	PTA総会は3年ぶりの開催となり、多くの保護者に参加があった。また、PTA理事会も多くの方の参加があり活発的な意見交換ができた。また、PTA研修会は、陶芸教室を行い、生徒が日頃のような授業を受けているのを感じて頂くことができ、PTAだよりも普通の学校の様子をできるだけ伝えられるような内容にした。	できる限り負担をすくなくするとともに、必要の無い慣例的な会合を廃止し、充実した活動ができるようにする。また、理事会や研修会などは早めに連絡をし、予定が立てやすいようにする。学校HP内のPTAコーナーを活用し、活動報告や連絡事項が確実に保護者の方々に伝わるようにする。
	国際教育活動の充実	外国人講師とのチームティーチングを充実させ、コミュニケーション力と国際理解の向上に努める。国際理解教育関連の活動における指導の充実を図るため、講習や研修会に参加する。	B	ALTとのチームティーチングは全学年合わせて1日平均4時間行った。教科書の内容に加えて、外国の文化や料理などについても取り扱い、国際理解を深めた。	ALTとのチームティーチングにおいては事前の打ち合わせを入念に行い、授業の内容が濃いものになるように努めていく。授業の他に生徒とALTが関われるように、活動を工夫する。
	教育活動情報の公開	教育活動やその成果を積極的に開示するため、ホームページにおいて最新の情報をリアルタイムに更新し提供する。	A	ホームページに学校行事だけでなく教育活動全般について掲載し、ほぼ毎日更新できた。	学校アピールにつながるような内容をホームページへ積極的にアップし、本校に興味・関心を持ってもらえる機会を増やす。
	地域との連携促進	地域行事やボランティア活動に主体的に参加し、積極的に地域との交流を図る。年間に生徒一人が1回以上のボランティア活動を行う。	A	新型コロナウイルスの影響で中止となる機会が多かったが、可能な限りの活動は出来たと考えている。愛媛マラソンには生徒、教職員含めて104名が参加し、協力することができた。	愛媛マラソンへの協力は学校としての取組となりつつあり、次年度も引き継いでいきたい。地域行事にも積極的に関わられるよう連携を取っていきたい。
	大学等との連携促進	大学等の授業・施設利用体験、学生と生徒の交流等を各年次1回以上行う。事業所訪問、インターンシップにおいて30か所以上の事業所との連携を行う。 A:30か所以上 B:29～25か所 C:24～20か所 D:19～10か所 E:9か所以下	A	コロナ禍ではあったが、1年次「地域に生きる人々に学ぶ」5講座、「企業・大学等訪問」6か所、2・3年次「出張授業」12講座を行うことができ進路意識の醸成につながった。インターンシップは27事業所で行うことができた。	来年度も「地域に生きる人々に学ぶ」「出張授業」「企業・大学等訪問」「インターンシップ」等上級学校や事業所との連携を予定している。感染状況を注視しながら効果的な体験学習をすすめていきたい。
保健・安全管理	安心・安全な教育環境の充実	生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通事故・違反ゼロを目指す。さらにヘルメット着用の徹底を図る。 安全点検を年間3回以上実施し、安心・安全で清潔な施設や設備の整備に努める。また、非常変災時に備え、危機意識の向上を図るために、防災避難訓練については予告なし訓練も実施する。 心身の健康の保持増進を図り、健康で活力ある生徒を育てるため、保健指導・健康相談の充実にも努める。また、感染症予防、適切な環境衛生の維持管理に努める。	A	自転車による重大事故は発生していない。郊外での自転車マナーに関する指摘もずいぶん減少した。スマホに関しては、目的外使用で指導した件数は約10件あったが、そのすべてが1年次生である。気の緩みによるものであるが、もう一度スマホとの関わり方について生徒に問いかける必要があるとす。スマホ安全教室の実施だけでなく、様々な場面で呼びかけることで生徒の意識を高める必要性を感じた。	緊急連絡の徹底を図るとともにスマホの利用に関して、届け出制による持ち込み許可の条件を今一度生徒に確認する予定である。また、情報モラルの教育にも力を入れていきたい。登下校については、時間を厳守する習慣作りを行うとともに、不審者に対する注意喚起を徹底し、安全な登下校をさせるよう、あらゆる局面で生徒に注意喚起を行っていきたい。
			A	安全点検を5回実施してきた。年度途中から部室の点検も加え、より安心・安全に施設や設備の管理を行った。防災避難訓練も予告なし訓練を含めて、適切に実施でき、危機意識の向上を図ることができた。	施設の老朽化により、すぐに修理改善できないところもあるが、要望の多い、トイレの洋式化に向けて、各所と連携して取り組みたい。地域との防災避難訓練の連携が来年度以降はできればよい。
			A	学校医等と連携し感染予防対策をとりながら、健康診断や行事等を行った。健康診断の事後措置については、二学期に受診のお知らせを再度配布することで受診率が上がった。保健指導・健康相談については、担任やSLAと連携しながら取り組むことができた。生徒保健委員活動では、ICT機器と健康についてアンケート調査を実施し、目の健康等について調べて発表した。	健康診断後の受診率がより向上し、自分の健康は自分で守るという意識が高まるよう、今後も指導を続けていきたい。生徒保健委員活動については、今後もICT機器を活用しながら、わかりやすく興味を引くことができるよう工夫したい。感染予防については、対策疲れや慣れによって意識が低くならないよう、継続した保健指導に努めたい。
業務改善	職場の環境改善	業務の効率化を推進したり健康講座や健康相談を実施したりして、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	A	諸会議資料を紙媒体から電子データへの転換したり、ICT支援員配置を維持を図ったり、業務の効率化を推進した。また、健康講座では座学形式でなく、実技指導を伴う講座を実施して教職員の疲労回復を推進することができた。	ICT活用により、従前の習慣に縛られることなく、ビルド&スクラップの発想で一層の業務の軽減及び環境の改善の推進に努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。